

總社 村東 02 遺跡

日新電機前橋株風寮新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009. 3

前橋市教育委員会文化財保護課

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感じられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・総社二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する総社村東02遺跡は古代上野国の中核地域の調査であります。総社古墳群や大屋敷遺跡に隣接することから、調査結果に多くの注目を集めております。今回の調査では、そのものに関連する遺構の検出はありませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの堅穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査結果も織り上げて行けば、律令時代のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、日新電機株式会社前橋製作所の物心両面にわたるご援助の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市教育委員会
教育長 中澤充裕

例　　言

1. 本報告書は日新電機前橋株風寮新築工事に伴って実施した総社村東02遺跡の報告書である。
2. 遺跡の所在地は前橋市総社町総社2056番地ほか
3. 調査は、前橋市教育委員会教育長（中澤充裕）の指導のもとに委託者日新電機株式会社前橋製作所（所長中橋昭雄）の委託を受け、スナガ環境調査株式会社（代表取締役 須永真弘）が実施した。
業務監督員 山下歳信、塙坪丈夫、岩丸辰久（前橋市教育委員会）
調査担当者 金子正人、樺田友寿（スナガ環境調査株式会社）
4. 期　間 発掘 平成20年12月25日～平成21年1月23日
整理 平成21年1月26日～平成21年3月13日
調査面積 178m²
5. 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
6. 本書は、教育委員会の指導のもと、スナガ環境調査㈱が作成に当たり、原稿執筆Ⅰは山下歳信、その他は金子が担当し、遺構・遺物のトレース…櫛田、遺物洗浄・注記・接合・整理…品川浪江・中川綱子・佐々木智恵子、写真・内業事務…須永豊が担当した。
7. 発掘調査に参加した方々（敬称略）
長澤俊男 黒田雄司 石川さわ子 内山恵美子 星野陽子 高林 操

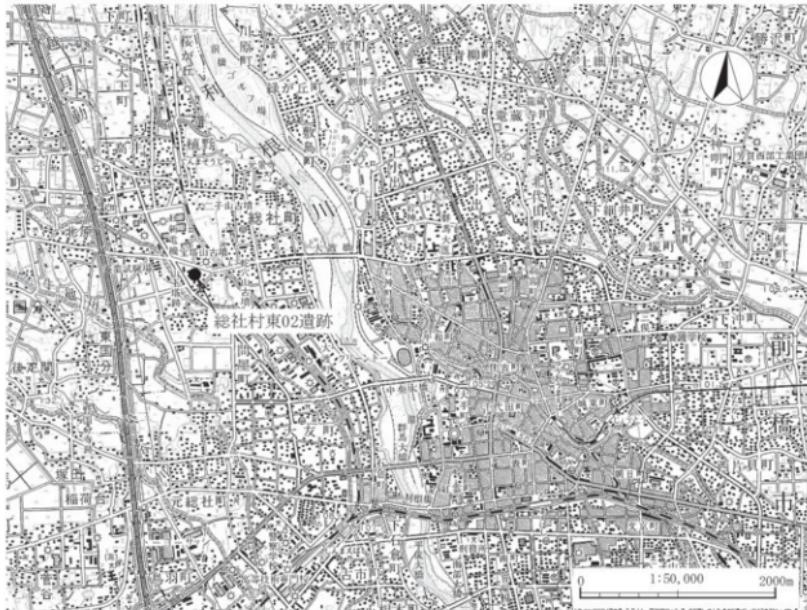
凡　　例

1. 遺跡の略称　総社村東02遺跡（20A142）である。
2. 遺構名の略称 古墳～奈良・平安時代の住居跡…H　堅穴状遺構…T　土坑…D　ピット（柱穴）…P
溝跡…W　井戸跡…I　実測図中の記号　S…石　P…土器　本文中の（　）は推定値、〔　〕は現存値を表す。
3. 実測図の縮尺は、遺跡平面図…1/200　住居跡・堅穴状遺構・版築状遺構…1/60
土坑・溝・井戸跡…1/60
4. 押図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
5. 遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点と照合済み。
6. 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修　財團法人日本色彩研究所　色票監修）による。
7. 土層注記中の緑は縮まり、粘は粘性とし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。
8. 須恵器断面……■、灰　　釉……■を使用した。

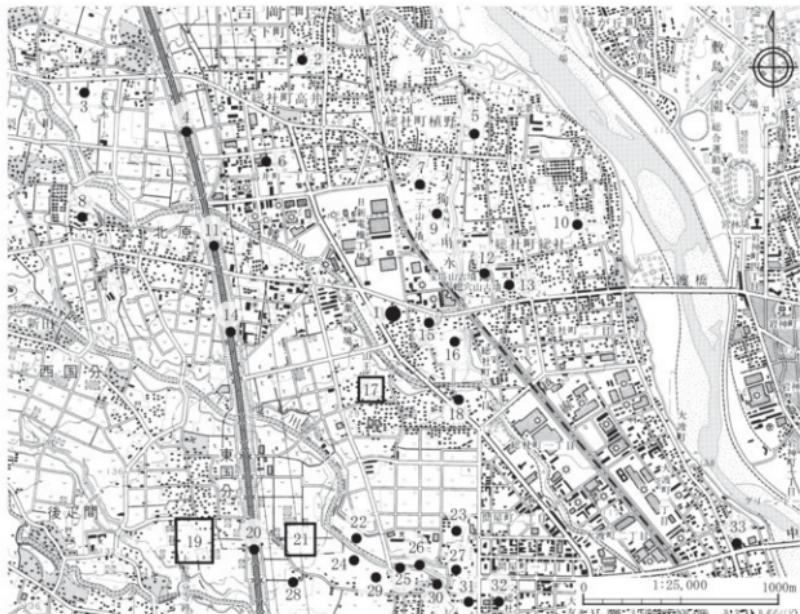
目 次

はじめに

I 調査に至る経緯	1	(1) 壴穴状遺構	6
II 遺跡の位置と歴史的環境	1	(2) 版築状遺構	6
1 遺跡の位置と歴史的環境		(3) 土坑 第2表土坑計測表	7
III 調査方針と経過	1	(4) ピット(柱穴) 第3表ピット計測表	7
1 調査方針 2 調査経過		(5) 溝 跡	7
IV 層 序	2	(6) 井戸 跡	7
V 検出された遺構と遺物	3	4 まとめ	7
1 古墳時代の遺構と遺物	3	遺物観察表	8
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	4	挿 図	11
3 その他の遺構と遺物	6	写真図版	18



第1図 遺跡位置図



第2図 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	村東02遺跡	本遺跡 古墳～平安住居跡、他	17	山王寺跡	白鳳期
2	總社楓野北開土遺跡	古墳水田跡、他	18	昌業寺跡向遺跡・II遺跡	奈良・平安住居跡
3	藥師前遺跡	圓文ビット、奈良・平安住居跡・溝跡	19	上野国分僧寺跡	平安
4	下東西遺跡	圓文埋甕、弥生～平安住居跡、他	20	上野国分僧寺・尼寺中間地域	圓文～平安住居跡、中世溝跡・道路
5	縮荷山古墳	円墳？	21	上野国分寺跡	奈良
6	柿木遺跡・II遺跡	奈良・平安住居跡・溝跡	22	元總社北川遺跡	古墳水田跡、平安水田跡
7	總社二子山古墳	前方後円墳（6世紀後半）	23	總社甲稻荷塚大道西II遺跡	古墳～平安住居跡・溝跡
8	熊野谷遺跡・II・III遺跡	圓文・平安住居跡・平安溝跡	24	元總社蒼海道跡群(17)	古墳・奈良・平安住居跡、他
9	愛宕山古墳	方墳（7世紀前半）	25	元總社小見内V遺跡	中世土坑
10	遠見山古墳	前方後円墳	26	元總社牛池田遺跡	古墳水田跡
11	北原遺跡	圓文土坑、古墳水田、奈良・平安住居跡	27	總社甲稻荷塚大道西II遺跡	平安住居・溝跡、他
12	宝塔山古墳	方墳（7世紀後半）	28	元總社小見VII遺跡	圓文住居跡、古墳～平安住居跡・溝跡
13	蛇穴山古墳	方墳（7世紀末葉）	29	元總社小見内田遺跡	弥生住居跡、古墳～平安住居跡・溝跡
14	国分境遺跡・II・III遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他	30	總社閻明神北II遺跡	古墳水田跡・畠跡
15	村東遺跡	古墳～平安住居跡・溝・中世堀跡	31	總社閻明神北II遺跡	古墳～平安住居跡・溝跡
16	大屋敷遺跡I～V	圓文～奈良・平安住居跡・中世堀跡、他	32	閻泉横道跡	奈良・平安溝跡
			33	王山古墳	前方後円墳（6世紀中）

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、日新電機前橋棟風寮新築工事に伴い行われた。平成20年11月7日に試掘調査依頼書を受理し、12月27日に試掘調査を実施し、平安時代の住居跡等を検出した。建設計画による基礎の深さと遺構検出面とを照合すると遺跡が破壊される恐れが生じた。この結果に基づき、12月5日、同月10日、同月18日に日新電機(株)前橋製作所関係者と協議を行い、現状での保存が不可能との事から、記録保存を目的とした調査について調整に入り、発掘調査を実施することで合意した。

平成20年12月25日付けで、開発事業者 日新電機株式会社前橋製作所 所長 中橋昭雄、民間調査機関であるスナガ環境測設株式会社 代表取締役 須永眞弘、調査主体者 前橋市教育委員会 教育長 中澤充裕の三者契約を締結し、同日より現地での発掘調査を開始し、平成21年1月23日に現地調査を終了した。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の位置と歴史的環境

遺跡の所在する総社町は、前橋市中心市街地から北西に4kmに位置する。遺跡の東側には利根川が北から南へ流れ、西側には八幡川があり、1号工業団地の南にある。前橋市では、「豊かで素晴らしい社会を築く町づくり」を目途に、福祉、教育、文化、環境等の整備拡充を進めている。

総社町は榛名山東南麓に位置し古代から近世におよぶ貴重な文化財の宝庫である。古墳時代には総社二子山古墳（6C後半）、愛宕山（7C前半）・宝塔山（7C後半）・蛇穴山古墳（7C末葉）等の総社古墳群が造られている。また東日本最古の寺院の一つである山王庵寺、8世紀中頃には上野国府・国分寺が造られた。10世紀前半の平将門や12世紀後半の足利俊綱による戦乱でこの地域の文化も荒廃したものと見られる。遺跡の東側を流れる天狗岩用水は秋元氏によって開削された。

III 調査方針と経過

1 調査方針

調査地の北西隅を基点とし、西から東へX1、X2、X3、…、北から南へY1、Y2、Y3…を基本として（グリッド原点X0、Y0は、日本測地系座標値X=44,940.000、Y=-71,496.000）調査区域に4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。水準は本遺跡から北東方向に約2.3kmの群馬中央倉庫（株）の屋上にある基準点からの基準標高に基づき測定した。

図面作成は原則として、1/10、1/20、1/40、1/100等の縮尺を使用し、平板・造り方による細部測量で作図を行った。また、遺構等の写真撮影は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

2 調査経過

平成20年12月25日付で契約書が整い、現地にて業務監督・前橋市教育委員会（前原 豊 課長補佐）、発注者・日新電機株式会社前橋製作所（塚田 誠 総務課長）、受注者・スナガ環境測設株式会社（須永、金子、権田）の3者による打ち合わせを行った。

12月25日より調査区東側から表土除去作業と遺構確認作業を開始した。今回の調査によって、現地表より70~140cm程で住居跡23軒（H-12・13・15・23は欠番）、竪穴状遺構1棟、版築状遺構1ヶ所、溝跡1条、土坑2基（D-1は欠番）、ピット4基、井戸跡1基を検出した。調査に当たっては、元々固く締まった土層と厳寒の時期で毎日養生マットを掛けても翌朝には凍り付き、現棟風景の日陰のため溶けにくく、狭いトレンチ状の中で重複する遺構の確認は大変な苦労をようした。

1月24日には遺構の精查、高所作業車による写真撮影、遺構測量が終了し、25日に埋め戻しを完了した。26日監督員の調査終了検査を受け、調査機器の撤去を終了した。

IV 層 序



第3図 基本土層断面図

基本土層 土層注記

- I. 碎石層
- II. 暗褐色土層 (10YR3/4) 中細弱粘 白色蛭石粒φ1~5mmを2%含む (耕作土)
- III. 黒褐色土層 (10YR2/3) 中細中粘 白色蛭石粒φ1~5mmを3%、V層を少量含む
- IV. 黑褐色土層 (10YR2/3) 中細中粘 白色蛭石粒φ1~5mmを5%、V層を2%含む
- V. 褐色土層 (10YR4/4) 中細中粘 白色蛭石粒φ1~5mmを5%、暗褐色土(10YR3/3)を15%含む

V 検出された遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

住居跡

H-11 (第4・5図 図版1)

位置 X12・13、Y1・2・2グリッド 重複 H-2・3・4・10 形状 長方形 規模 1辺が(4.50m)以上 確認面から床面までの覆土は80cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.26m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から7世紀後半 遺物 出土量が多い。掲載した遺物は土師器環(16・19・21)、長胴甕(17・18・20)、高环脚部(22)の7点。

H-16 (第4・6図 図版1)

位置 X10、Y2・3・3グリッド 重複 竪穴状遺構(T-1) 8号トレンチの壁断面を見ると、T-1の他に遺構が存在する可能性があるが確認できなかった。 形状 不明 規模 1辺[2.90m] 確認面から床面迄の覆土は55cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.69m 柱穴・貯蔵穴・竈 (確認面で帯状の焼土が確認されたが、竈としては炭化物や灰が確認出来なかった。) 不明 時期 埋土や出土遺物から6世紀中頃 遺物掲載した遺物は須恵器蓋(23)、菰石(24・25)の3点。

H-20 (第4図 図版1)

位置 X3・4、Y3・3グリッド 重複 H-18・21 形状 長方形 規模 1辺が(2.90m) 面積・主軸方向 不明 床面 焼土とロームの混じった堅敏な床面、標高は127.70m 柱穴 2基検出(P1 長径60cm 短径[28cm] 深さ50cm 桟円形、P2 長径70cm 短径50cm 深さ50cm 桟円形) 貯蔵穴・竈 不明 時期 重複関係と出土遺物から7世紀頃考えられる。 遺物 土師器環の破片などが出土しているが、掲載した遺物はない。

H-21 (第4図 図版1)

位置 X3・4、Y3・4グリッド 重複 H-19・20 形状 (長方形) 規模 長軸(3.90m) 短軸(3.80m) 面積 (14.82m²) 主軸方向 不明 床面 平坦で堅敏 床面の標高は127.71m 柱穴 8基検出(P1 長径60cm 短径[19]cm 深さ49cm 桟円形、P2 長径28cm 短径23cm 深さ23cm 方形、P3 長径[56]cm 短径50cm 深さ23cm 桟円形、P4 長径32cm 短径28cm 深さ30cm 方形、P5 長径46cm 短径(41)cm 深さ32cm 桟円形、P6 長径47cm 短径36cm 深さ50cm 桟円形、P7 長径58cm 短径[36]cm 深さ19cm 桟円形、P8 長径(40)cm 短径[20]cm 深さ11cm 桟円形) 土坑 (D1 長径157cm 短径[33]cm 深さ24cm 桟円形) 貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から7世紀後半 遺物 掲載した遺物は須恵器環(27) 1点。

H-24 (第4図 図版1)

位置 X4・5、Y4・5グリッド 重複 H-18・19 形状 長方形 規模 1辺(3.76m) 確認面から床面までの壁高は43cm 面積・主軸方向 不明 床面 平坦で堅敏 床面の標高は127.64m 柱穴 5基検出(P1 長径25cm 短径22cm 深さ11cm 桟円形、P2 長径37cm 短径[20]cm 深さ11cm 桟円形、P3 長径27cm 短径15cm 深さ5cm 桟円形、P4 長径32cm 短径[11]cm 深さ9cm 桟円形、P5 長径41cm 短径[20]cm 深さ11cm 桟円

形) 貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から7世紀後半 遺物 掲載した遺物は土師器壺(28・29・30)、小型壺(31)、劍型模造品(32)、蘆石(33)の6点。

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

H-1 (第4・6図 図版1)

位置 X 9・10、Y 1・2 グリッド 重複 H-1 形状 長方形 規模 長軸(3.45m) 短軸(2.80m) 面積 (9.66m²) 主軸方向 N-95°-E 床面 平坦で堅緻 床面の標高は127.91m 柱穴 2基検出 (P 1 長径30cm 短径27cm 深さ36cm、P 2 長径35cm 短径26cm 深さ27cm) 貯蔵穴 不明 竈 東壁南寄りに構築 全長113cm 最大幅75cm 焚口幅57cm 主軸方向 N-94°-E 時期 埋土や出土遺物から10世紀後半 遺物 掲載した遺物は高台付塊(1)、灰釉陶器(2)の2点。

H-2 (第4・5図 図版1)

位置 X 11・12、Y 1 グリッド 重複 H-3・11 形状 方形 規模 一辺(3.40m) 確認面から床面迄の壁高は(54cm) 面積・主軸方向 不明 床面 平坦で堅緻 床面の標高は127.55m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から9世紀前半 遺物 掲載した遺物は土師器長胴壺(3) 1点。

H-3 (第4・5図 図版1)

位置 X 11・12、Y 1・2 グリッド 重複 H-2・11 形状 方形 規模 一辺(3.48m) 面積・主軸方向 不明 床面 平坦で堅緻 床面の標高は127.70m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明。 時期 埋土や出土遺物から9世紀後半 遺物 掲載した遺物は須恵器塊(4) 1点。

H-4 (第4・5図 図版1)

位置 X 11・12、Y 1・2 グリッド 重複 H-5・7・11 形状 ほぼ正方形 規模 一辺(3.50m) 確認面から床面迄の壁高は40cmを計る。 面積・主軸方向 不明 床面 平坦で堅緻 床面の標高は127.53m 土坑(D 1 長径83cm 短径80cm 深さ39cm 円形) 竈 東壁のほぼ中央部に2ヶ所並んで検出した。南側の竈は全長95cm、最大幅[32cm]で形がしっかり残っており、壁には構築材として使用された石が火を受けた痕跡を残した状態で検出され、竈床には灰や炭化物が残っていた。北側の竈は形が崩れ、灰や炭化物を少量検出した。 柱穴・貯蔵穴 不明。 時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃 遺物 掲載した遺物は羽釜片(5)、灰釉陶器塊(6)、須恵器塊(7)、砥石(8)の4点。

H-5 (第4・6図 図版1)

位置 X 10・11、Y 2・3 グリッド 重複 H-4・6・7・14 形状 長方形 規模 一辺(3.30m) 面積・主軸方向 不明 床面 堅緻で標高は127.58m 柱穴・貯蔵穴 不明 竈 9号トレンチの東壁の中に主体部はある。全長[77cm] 最大幅50cm 時期 埋土や出土遺物から8世紀中頃 遺物 出土量は多い。掲載した遺物は須恵器壺(9)・蓋(10)、土師器壺(11)の3点。

H-6 (第4・6図 図版1)

位置 X 10・11、Y 2 グリッド 重複 H-5・7 形状 長方形 規模 1辺[2.00m] 面積・主軸方向 不明 床面 堅緻で標高は127.56m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から9世紀前半 遺物

掲載した遺物は甕口縁部(12) 1点。

H-7 (第4・6図 図版1)

位置 X10・11、Y1・2グリッド 重複 H-4・5・6 形状 長方形 規模 一辺(2.15m) 確認面から床面迄の壁高57cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.63m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 H-6とH-4をH-7が切っているため9世紀前半より古い住居跡と考えられる。 遺物 掲載した遺物はない。

H-8 (第4・6図 図版1)

位置 X11、Y3グリッド 重複 H-14 形状・規模 不明 確認面から床面迄の壁高は70cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.54m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から9世紀後半 遺物 出土量が多い。掲載した遺物は土師器壺(13) 1点。

H-9 (第4・5図 図版1)

位置 X12、Y2グリッド 重複 H-10 形状・規模 不明 確認面から床面迄の壁高48cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.65m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 10世紀中頃 遺物 羽釜の破片が出土しているが、掲載した遺物はない。

H-10 (第4・5図 図版1)

位置 X12、Y2グリッド 重複 H-9・11 形状・規模 不明 確認面から床面迄の壁高は40cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.73m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 埋土や出土遺物から8世紀中頃 遺物 掲載した遺物は土師器壺(14)、甕口縁部(15)の2点。

H-14 (第4・6図 図版1)

位置 X11、Y2・3グリッド 重複 H-4・5・8 形状・規模 不明 確認面から床面迄の壁高48~74cm 面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.67m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明 時期 重複関係から5号住居跡より古いと考えられる(8世紀前半か)。 遺物 掲載した遺物なし。

H-17 (第4図 図版1)

位置 X5・6、Y3グリッド 形状 長方形 規模 長軸(4.90m) 短軸(4.34m) 面積 (21.26m²) 主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.85m 柱穴 3基検出 (P1 長径65cm 短径43cm 深さ38cm 楕円形、P2 長径55cm 短径35cm 深さ33cm 円形、P3 長径32cm 短径30cm 深さ14cm 円形) 土坑 (D1 長径140cm 短径[50cm] 深さ26cm 皿状) 竈 不明 時期 10世紀中頃 遺物 灰釉陶器・羽釜・高台付塊等の破片が出土したが、掲載できる遺物はない。

H-18 (第4図 図版1)

位置 X4・5、Y3・4グリッド 重複 H-19・24 形状 (長方形) 規模・面積・主軸方向 不明 床面 堅敏で標高は127.84m 柱穴・貯蔵穴 不明 竈 東壁中央部に位置する。全長60cm 最大幅60cm 時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃 遺物 掲載した遺物は須恵器壺(26) 1点。

H-19 (第4図 図版1)

位置 X 4、Y 3・4 グリッド 重複 H-18・21・24 形状 長方形 規模 長軸(4.10m) 短軸(3.75m)
面積(15.37m²) 主軸方向 不明 床面 焼土粒・ローム粒・炭化物を含む堅緻な床面。床面の標高は127.80m
柱穴・貯蔵穴 不明 竈 東壁の南寄りに位置し、僅かに焼土を残す。全長70cm 最大幅67cm 時期 重複関係
と出土遺物から10世紀後半と考えられる。 遺物 羽釜の胸部小片が出土しているが、掲載した遺物はない。

竈1 (H-25) (第4図 図版1)

位置 X 6、Y 4 グリッド 重複 H-17・26 5号トレンチ中央部で焼土が集中していた。焼土を半裁して
みると下方から炭化物が確認され、全長[45cm]、最大幅65cmを測る竈の存在が推測された。5号トレンチ内の確
認面は堅い床面状を呈し、この面の標高は127.93mを計測した。 規模・面積・主軸方向・床面・柱穴・貯蔵穴
不明 時期 10世紀後半 遺物 土師・須恵器などの破片が検出された。掲載した遺物は土製玉(34) 1点。

時期不明の住居跡

H-22 (第4・7図 図版1・2)

位置 X 1・2、Y 3・4 グリッド 重複 版築状遺構 形状 長方形 規模 一辺(4.60m) 面積・主軸
方向 不明 床面 平坦で堅緻 床面の標高は127.75m 柱穴・貯蔵穴・竈・時期 不明 遺物 掲載した遺物
ない。

竈2 (H-26) (第4図 図版1)

位置 X 6、Y 4 グリッド 重複 H-25・27 5号トレンチ東壁に竈の断面が確認された。壁の断面と焼土
の範囲から、住居の西側に竈を持つものと推測される。この面の標高は127.88m。 竈 全長[35cm]、最大幅45
cmを計測した。 規模・面積・主軸方向・床面・柱穴・貯蔵穴・時期 不明 遺物 掲載した遺物はない。

竈3 (H-27) (第4図 図版1)

位置 X 6、Y 4・5 グリッド 重複 H-26 5号トレンチの南端に焼土が確認された。その焼土の下方か
ら黒色の灰層が見られ、その他は黒色土に焼土が混入した暗赤褐色土であった。 竈 全長[35cm]、最大幅55cm
を計測した。標高は127.90m。 形状・規模・面積・主軸方向・床面・柱穴・貯蔵穴・時期 不明 遺物 掲載
した遺物はない。

3 その他の遺構と遺物

(1) 壁穴状遺構 (T-1) (第4・6図 図版1・2)

位置 X10、Y 2 グリッド 重複 H-1・16 形状 (方形) 規模 長軸[1.50m] 短軸[1.50m] 確認面か
ら床面迄の壁高は(8 cm)を計る。 面積 [2.25m²] 主軸方向 N-130°-E 床面 平坦で堅緻 床面の標
高は127.65m 柱穴・貯蔵穴・竈 不明。 時期 墓土や出土遺物から10世紀中頃 遺物 掲載した遺物は土師
器坏(35) 1点。

(2) 版築状遺構 (第4・7図 図版1・2)

位置 X 2、Y 4・5 グリッド 重複 H-22 形状 長方形 規模 長辺(4.36m以上) 版築面 表土か

ら版築面上端まで67cmを測る。標高は127.98~127.84mで、14cmの間に平坦で堅緻な土層が2~3層両側の壁面で確認され、2号トレンチ両端に掘込みを検出した。**柱穴** 2基検出（P1 長径53cm 短径42cm 深さ57cm 楕円形、P2 長径59cm 短径56cm 深さ84cm 円形）面積・主軸方向・時期 不明 **土坑** 1基検出（D1 長径[108cm] 短径[86cm] 深さ40cm）**遺物** 掲載した遺物はない。

(3) 土坑

第2表 土坑（古墳時代以降）計測表

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模 (cm)			遺物	備 考 (重複、その他)
		平面	断面	長径	短径	深さ		
D-2	X 5, Y 2	楕円	台形	[83]	133	32	高台付塊	掲載遺物(36)
D-3	X 6, Y 3	円	皿状	62	[37]	33		

* D-1号土坑は欠番

(4) ピット（柱穴）

第3表 ピット計測表

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考	ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
P-1	X 9, Y 2	30	22	36	楕円		P-3	X 8, Y 2	41	37	22	円	
P-2	X 9, Y 2	35	22	20	楕円		P-4	X 8, Y 2	38	25	13	楕円	

(5) 溝 跡 (W-1) (第4・6図 図版1)

位置 X 9、Y 1・2グリッド 形状 皿状 規模 幅40~70cm 深さ8~10cm 断面からも試掘トレンチの埋め土で、どの層から掘られたか不明 時期 不明。 遺物 掲載した遺物は高台付塊(37)1点。

(6) 井戸跡 (I-1) (第4・7図 図版1)

位置 X 2、Y 3グリッド 形状・規模 平面形状は長径88cm、短径[73cm]の(円形)。断面形状は筒状で深さ2.5m以上と思われる。 時期 土層断面から中世以降の井戸と考えられる。 遺物 出土しなかった。

4 まとめ

村東02遺跡は利根川と八幡川に挟まれ、北側に總社古墳群（總社二子山・愛宕山・遠見山・宝塔山・蛇穴山）等多くの遺跡が集中する地域である。東側に天狗岩用水（当時は低地を形成）西側に八幡川で区画され、南東方向に延びる舌状台地の先端西側に位置する。周辺遺跡（大屋敷遺跡・村東遺跡）の調査結果から濃密な遺構分布が想定された。

調査は12月25日から翌年1月23日まで、新築される寮の基礎部分についてだけトレンチ状に調査を実施した。

遺構は古墳時代後半から平安時代の竪穴住居を中心として、その他に版築状遺構・竪穴状遺構・溝・井戸・土坑・柱穴等を検出した。

W-1号溝(X 9、Y 1・2・3)から東側では13軒の住居跡と竪穴状遺構・土坑・柱穴等が検出された。調査区画内中央部のX 7、Y 2・3グリッドからX 8、Y 1・2・3グリッドにかけては土坑(D-2・3)と柱穴(P-1~4)以外の遺構は確認されなかった。X 6、Y 2・3グリッドの西側では住居跡10軒、版築状遺構・井戸等が検出された。西端の1号トレンチでは遺構が確認されなかった。

以上のことから調査地内を4地区に区分される。

- (1) 1号溝の東側では各時期の住居跡が確認された。
- (2) 中央付近では、住居跡が検出されず土坑と柱穴が検出された。
- (3) 西側では軒数も少なく8世紀前半から9世紀後半までの住居跡は確認できなかった。
- (4) 西端からは住居跡・土坑・柱穴等の遺構の確認が出来なかった。

検出した住居跡を出土した遺物から時期区分すると以下のようになる。

- ①6世紀中頃～7世紀前半の住居跡（東側）H-16、（西側）H-20
- ②7世紀後半の住居跡（東側）H-11、（西側）H-21・24
- ③8世紀前半～8世紀中頃の住居跡（東側）H-5・10・14、（西側）なし
- ④9世紀前半～10世紀前半の住居跡（東側）H-2・6・8、（西側）なし
- ⑤10世紀中頃の住居跡と遺構（東側）H-1・3・4・9、T-1、（西側）H-17・18・19・竈1
- ⑥時期区分の不明な遺構は西側のH-22・26・27の3軒であった。

元総社蒼海遺跡群で用いられている時期区分に従って、律令制の繁栄、衰退の時期を考えI期を律令期以前（～7世紀前半）、II期を律令期（7世紀後半～10世紀初頭）、III期を律令期以後（10世紀前半～）に分類し集落を中心に考えてみると、本遺跡の住居跡の①はI期の律令期以前、②・③・④は、II期の律令期に該当し、⑤はIII期の律令期以後に該当するものと思われる。

参考文献

- 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1990 「上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)～(5)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988 「村東遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 「大屋敷遺跡VI」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 「元総社小見VII遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 「元総社蒼海遺跡群(17)」
前橋市・前橋市史編さん委員会「前橋市史 第1巻」

第4表 遺物観察表

番号	出土位置	器形	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存			器形の特徴、成・整形方法
				①相続	②良好	③赤褐色④1/5	
1	H-1	高台付塊	①(12.0) ②(5.4) ⑥4.2	①相続	②良好	③赤褐色④1/5	口縁部外反横彫で、底部付け高台。
2	H-1	灰釉 高台付塊	②(7.2) ⑥(2.2)	①細胞	②良好	③オーリーブ青④底1/2	内外面クロコ形。底部回転糸切り後撫調整。付け高台。
3	H-2	土 壺	①(21.0) ②[23.4] ④(19.3) ⑥[8.5]	①中粒	②良好	③灰白色④1/4	口縁部「く」の字状。内外面とも横彫で、頭～胴上位に指頭圧痕。
4	H-3	須恵 壺	①(13.4) ②(6.3) ⑥4.2	①中粒	②や不良	③褐色④ほぼ完形	口縁部は短く外反する。内外面クロコ形。底部回転糸切り後摩耗。
5	H-4	羽 釜	①(25.4) ②(27.4) ⑥(8.8)	①相続	②や不良	③暗灰色④1～胴1/8弱	口縁部は内傾し、胴部分に最大径を持つ。胴部は窄まり、内外面横彫で。
6	H-4	灰 釉	①(16.2) ②8.0 ⑥6.0	①相続	②良好	③灰白色④2/3	口唇部は僅かに外反する。内外面横け釉。回転糸切り、付け高台。
7	H-4	灰 釉	①(11.6) ②6.4 ⑥3.5	①細胞	②良好	③灰白色④1/4	内外面口唇部に施釉。回転糸切り、付け高台。底部は丸味を持つ。
8	H-4	砥 石	⑦(12.8) ⑨5.2 ⑨3.2 ⑩360	③オーリーブ灰	④1/2強	四面使用。凝灰岩	
9	H-5	須 恵 壺 壊	①(12.6) ②8.3 ⑥3.5	①中粒	②良好	③灰白色④ほぼ完形	口唇部は外反する。クロコ形外面彫。自然釉。底部は回転窓切り。中央に粘土付着。内面彫で。
10	H-5	須 恵 壺 蓋	①(19.2) ⑥3.6	①粗粒	②良好	③灰白色④ほぼ完形	天井部は回転窓切り。口唇部は下方に折り返す。クロコ形成、摘みは火鉢。内面彫で。
11	H-5	土 師 器 壺	①(12.8) ②(8.7) ⑥2.8	①中粒	②良好	③にい 地④1～底1/4弱	口縁部は内外面横彫で。底部は窓削り。

番号	出土位置	器形	法 畜	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、成・整形方法
12	H-6	土 瓶 壺	①(21.0) ②[19.8] ④(17.4) ⑥[5.9]	①中粒②良好 ③赤褐色④~頸1/4	口縁部「コ」の字状。口~頸部に指頭圧痕。口縁部横撫で。胴部 橫方向窪削り。内面口縁部横撫で。
13	H-8	土 瓶 壺 坏	①(12.8) ②[10.0] ⑥[3.0]	①細粒②良好 ③灰褐色④~底6弱	口縁部内外面横撫で。底部は平坦。
14	H-10	土 瓶 壺	①(15.4) ⑥[5.0]	①粗粒②良好 ③粒3/1~6強	口縁部はやや厚みを持つ。外面窪削り。内面撫で。
15	H-10	土 瓶 壺 要	①(20.4) ③[20.6] ④(15.6) ⑥[7.6]	①中粒②良好③によい 褐色④~肩部1/4弱	口縁部は内外面横撫で。頸部に厚みを持つ。胴部は斜方向窪削り。
16	H-11	土 瓶 壺 坏	①(12.8) ⑥[3.8]	①中粒②良好③明赤褐 色④口~底1/4	口縁部横撫で。外面底部窪削り。内面無。
17	H-11	土 瓶 壺 長 脱 瓷	①(22.0) ③[16.2] ④(16.2) ⑥[10.8]	①中粒②良好③明赤褐 色④口~肩1/2弱	口縁部は大きく述外し。肩部は直線的に立つ。外面口縁部横撫で。肩部は斜め方向窪削り。内面撫で。
18	H-11	土 瓶 壺	①(22.2) ⑥[9.0]	①粗粒②良好③によい 赤褐色④口~腰2/3弱	口縁部は「く」字状。頭部に厚みを持ち、口縁横撫で。胴部横方 窄窪削り。内面口縁横撫で。
19	H-11	土 瓶 壺 坏	①(10.4) ⑥[3.3]	①粗粒②良好③によい 褐色④~底部1/3強	口縁部は内傾し、外面口唇部横撫で。底部窪削り。内面無で、指 扇立痕。
20	H-11	土 瓶 壺 長 脱 瓷	①(22.0) ③[18.7] ⑦[7.8]	①粗粒②良好③によい 赤褐色④口~肩1/6弱	口縁部は外反し、胴部は緩やかに開く。外面口縁部横撫で。胴部 斜方窪削り。内面口縁横撫で。
21	H-11	土 瓶 壺 坏	①(10.6) ⑥[3.1]	①粗粒②良好 ③橙色④完形	全体に丸味を持ち口唇部は内傾する。口縁部横撫で。底部窪削り。内面横撫で。
22	H-11	土 瓶 壺 高脚瓶部	⑤(11.0) ⑥[4.1]	①細粒②良好③によい 橙色④部1/3	胴部に指撫でと刷毛目。裾部内面に折り返し後撫調整。
23	H-16	須 惠 盖	①(11.6) ⑥[3.6]	①粗粒②良好③オリー ブ灰色④1/4強	天井部は窪削り。内面撫で調整。
24	H-16	瓦 石	⑦(12.5) ⑥[6.0] ⑨[4.5] ⑩[573]	③暗青灰色	自然石 安山岩
25	H-16	瓦 石	⑦(12.2) ⑥[5.8] ⑨[3.5] ⑩[409]	③灰褐色	自然石 安山岩
26	H-18	須 惠 壺 坏	①(11.2) ②[6.0] ⑥[2.7]	①粗粒②やや不良 ③にいわ黄褐色④1/2強	口縁部は直線的に開く。底部は回転糸切り。外面口縁部横撫で。ロクロ形成。
27	H-21	須 惠 壺 坏	①(12.2) ⑥[8.6] ⑥[3.3]	①粗粒②良好 ③青灰色④1/4強	外面口縁部横撫で。底部窪切り。平底。内面撫で。
28	H-24	土 瓶 壺 坏	①(11.2) ⑥[3.1]	①中粒②良好 ③橙色④口~底1/3弱	外面口縁部は内傾し、横撫で。底部は窪削り。内面撫で。
29	H-24	土 瓶 壺 坏	①(12.0) ⑥[3.6]	①中粒②良好③明赤褐 色④口~底1/3強	外面口縁部は内傾し、横撫で。底部は窪削り。内面撫で。
30	H-24	土 瓶 壺 坏	①(13.2) ⑥[3.7]	①中粒②良好 ③橙色④口~底1/4	底部は窪削り、丸味を持つ。外面口縁部横撫で。内面撫で。
31	H-24	土 瓶 壺 坏	①(10.6) ④[9.4] ⑥[4.0]	①細粒②良好③暗赤褐 色④口縁部1/4弱	口縁部は外反する。外面口縁横撫で。胴部窪削り。内面口縁部横 撫で。
32	H-24	模 造 品	⑦(1.5) ⑧[1.590] 45 ⑩[25. ⑪[1.68]	③灰色④~部欠損	滑石製剣形模造品。劍先部分が欠落しているものと思われる。
33	H-24	瓦 石	⑦(16.2) ⑥[6.3] ⑨[4.3] ⑩[795]	③オーリーブ黒	自然石 安山岩
34	電 1	土 製 玉	⑦[2.3] ⑧[2.6] ⑨[2.4] ⑩[16.9]	①細粒②良好 ③赤④完形	ほぼ球形。表面に幅1mmの紐状の物を球体全面に巻き付けた状態 で焼けたものと思われる。
35	T-1	高 台 付 瓢	①(14.0) ⑥[4.1]	①粗粒②良好 ③橙色④口~底1/4弱	口縁部は僅かに外反する。ロクロ形成。外内面撫で。
36	D-2	須 惠 壺	⑥[4.5]	①中粒②良好 ③灰褐色④底部破片	大腹壺の底部。台部は貼り付け。外内面撫で。当て工具が見られる。
37	W-1	須 惠 壺	②(5.9) ⑥[2.0]	①中粒②やや不良 ③浅黄褐色④底部のみ	底部糸切り、付け高台。内面撫で。
38	X12・Y2 グリッフ	土 瓶 壺 坏	①(12.0) ⑥[4.0]	①中粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部内外とも横撫で。外面底部は窪削り。丸底。
39	X12・Y2 グリッフ	土 瓶 壺 坏	①(11.8) ②[10.7] ⑥[4.1]	①中粒②良好 ③にいわ橙色④完形	口縁部横撫で、棱を持つ。底部は窪削り。内面口縁部横撫で。底 部中央に粘土塊が見られる。
40	X10・Y3 グリッフ	灰 軸 高 台 付 瓢	①(6.6) ⑥[1.4]	①細粒②良好 ③灰色④高台部のみ	底部糸切り、付け高台。撫で調整。高台部まで施釉。内面撫 で。

(注) 遺物觀察表の記載は以下の基準で行った。

1. 法 畜は直径②底径③剖面最長径④頸部径⑤底部径⑥高さ⑦長さ⑧幅⑨厚さ⑩穿孔部⑪重量を表す。

①~⑩の単位はcm、⑪の単位はグラムである。また各表中の「—」は現存値、()は推定及び復元値を意味する。

2. 胎土は、①細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。

3. 焼成は、②良好、やや不良、不良の3段階とした。

4. 色調は、③土器外側で観察し、色名は「新張標準土色帳」(小山正忠・竹原秀雄 1999)による。

5. 遺存度は、④

第5図 土層注記

H-2 土層注記 (A-A')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、焼土粒1%含む
2. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒1%、Vを少量含む

H-4 土層注記 (C-C')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%含む
2. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒・炭化物を1%含む
3. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、焼土粒を2%、炭化物を1%含む
4. 暗褐色 弱綿粘 白色絆石粒1%、焼土粒を10%、炭化物を1%含む
5. 極灰色 弱綿粘 灰
6. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、焼土粒・炭化物を1%含む
7. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、炭化物を少量含む
8. 7にVを非常に多く含む
9. 混乱

H-3 土層注記 (A-A') (B-B')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、焼土粒を微量含む
2. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒を少量含む
3. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒1%、焼土粒・炭化物を少量含む
4. 暗褐色 強綿弱粘 白色絆石粒3%、Vを3%、焼土粒を少量含む

H-10 土層注記 (B-B')

1. 暗褐色 弱綿粘 白色絆石粒3%、焼土粒少量、炭化物を微量含む

2. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%含む

3. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%含む
4. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒少量、炭化物を少量含む

H-9 土層注記 (B-B')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒を1%、炭化物を微量含む
 2. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、焼土粒を少量含む
 3. 4に灰を多く含む
 4. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒1%含む
-
5. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%含む
 6. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、焼土粒を多く、Vを少量含む
 7. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、焼土粒2%、炭化物を少量含む
 8. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、灰を多く炭化物を少量含む
 9. 暗褐色 弱綿粘 白色絆石粒2%、炭化物を少量含む
 10. 暗褐色 弱綿粘 白色絆石粒3%含む
 11. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、Vを少量含む
 12. 11に焼土粒を非常に多く含む
 13. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、焼土粒を1%、Vを3%含む

第6図 土層注記

H-1 土層注記 (B-B')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、ローム粒2%含む
2. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、焼土粒を少量含む
3. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒少、ローム粒少量含む
4. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒少量、ローム粒10%含む

H-5 土層注記 (D-D') (E-E')

1. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、ローム粒少量、炭化物少量含む
2. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、ローム粒を少量、砂岩質ブロックを少量含む
3. 暗褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、ローム粒少量、焼土粒少量含む
4. 3に灰を多く含む
5. 暗褐色 弱綿粘 白色絆石粒3%、焼土粒・灰を多く含む

H-6 土層注記 (A-A')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、砂を少量含む
2. 黑褐色 中綿粘 白色絆石粒3%、焼土粒を少量含む
3. 暗褐色 中綿粘 白色絆石粒5%、焼土粒・炭化物を少量含む
4. 暗褐色 中綿粘 白色絆石粒3%、焼土粒・炭化物少量、Vを少量含む
5. 暗褐色 弱綿粘 白色絆石粒3%含む
6. 暗褐色 中綿粘 白色絆石粒3%、Vを少量含む

H-7 土層注記 (A-A') (D-D')

1. 黒褐色 中綿粘 白色絆石粒2%含む
2. 黑褐色 中綿粘 白色絆石粒3%、Vを少量含む
3. 暗褐色 中綿粘 白色絆石粒5%、Vを少量含む
4. 3にVを多く含む

H-8 土層注記 (D-D')

1. 暗褐色 中綿粘 白色絆石粒3%含む
2. 黑褐色 中綿粘 白色絆石粒3%、焼土粒1%含む
3. 2にVを5%含む

H-16 土層注記 (C-C')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒5%、ローム粒1%含む
2. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒を多く含む
3. 黑褐色 弱綿粘 白色絆石粒3%、ローム粒・ブロックを少量含む
4. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、焼土粒を少量含む
5. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%、焼土粒を多く含む
6. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒4%含む
7. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒2%含む
8. 黑褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%含む

T-1 土層注記 (C-C') (E-E')

1. 黒褐色 中綿弱粘 白色絆石粒3%、V・炭化物を少量含む

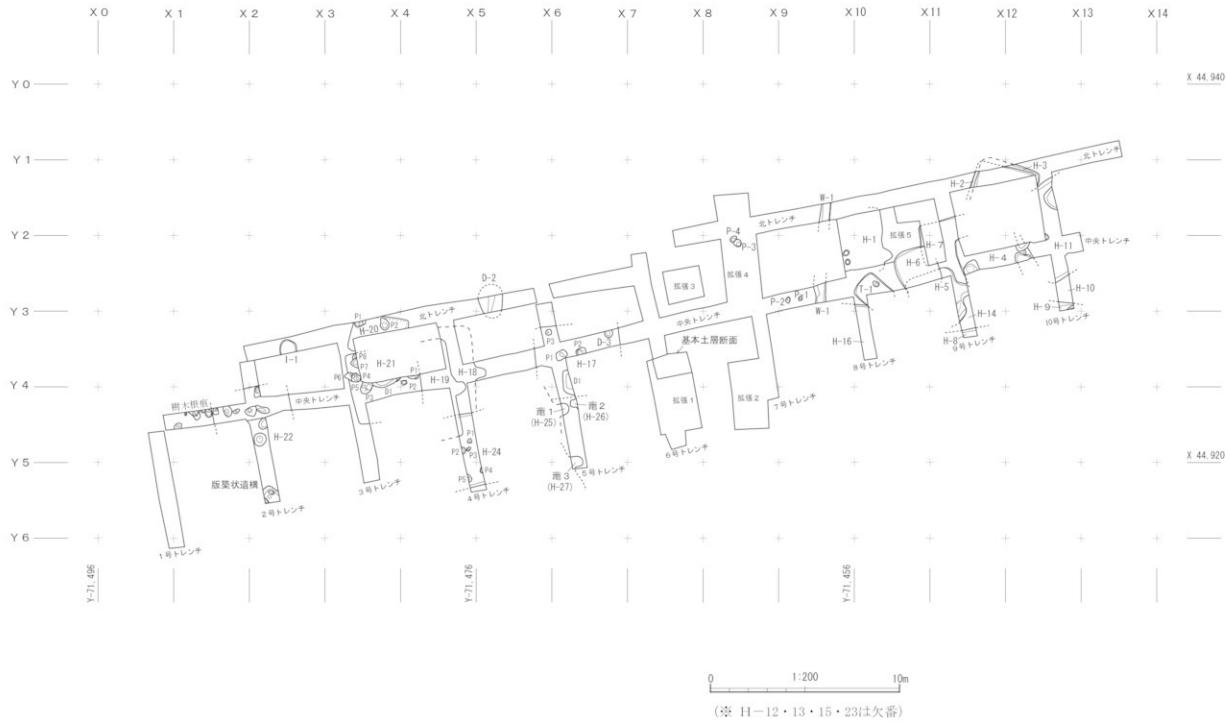
W-1 土層注記 (E-E')

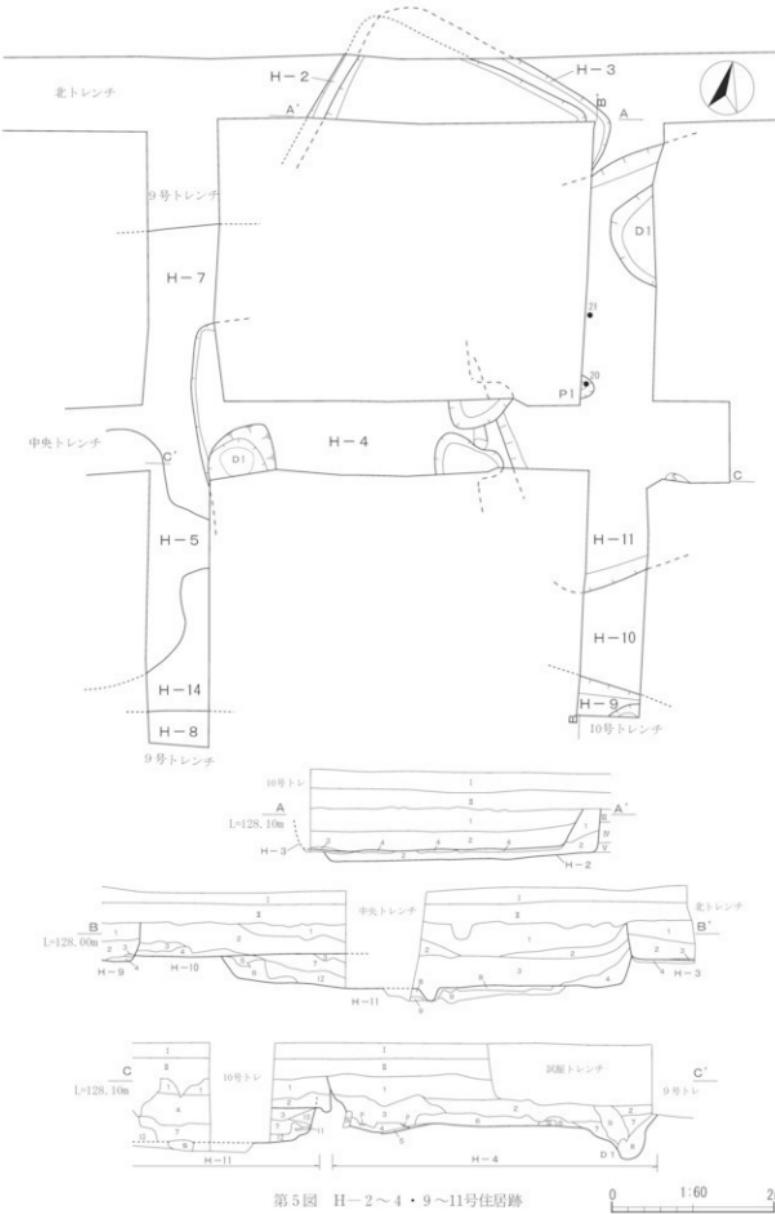
1. 黒褐色 弱綿粘 白色絆石粒2%、Vを少量含む

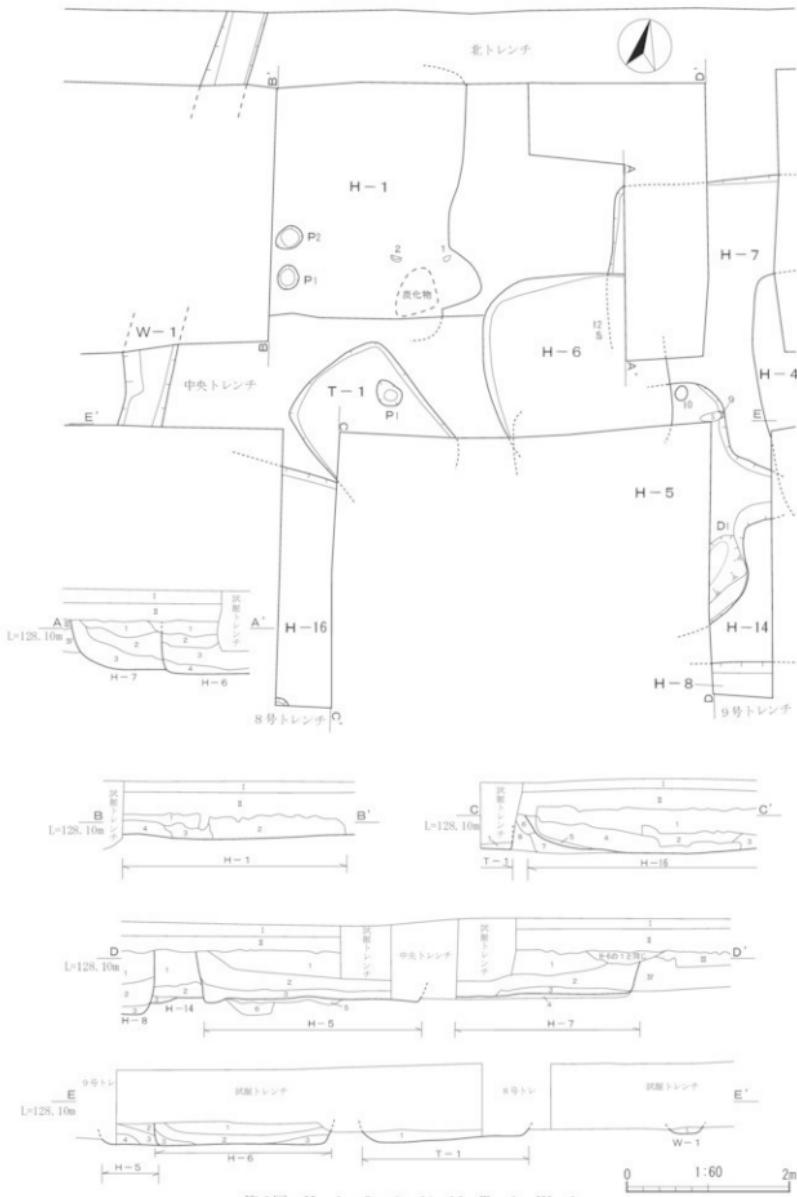


総社村東02遺跡全体図

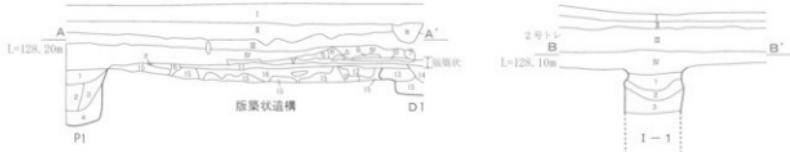
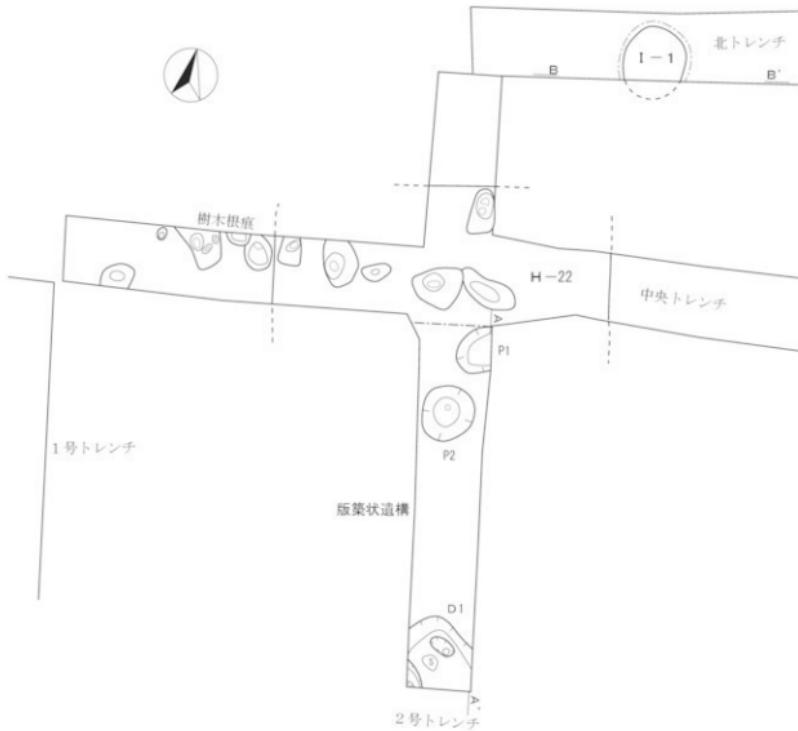
S = 1 : 200







第6図 H-1・5～8・14・16、T-1、W-1

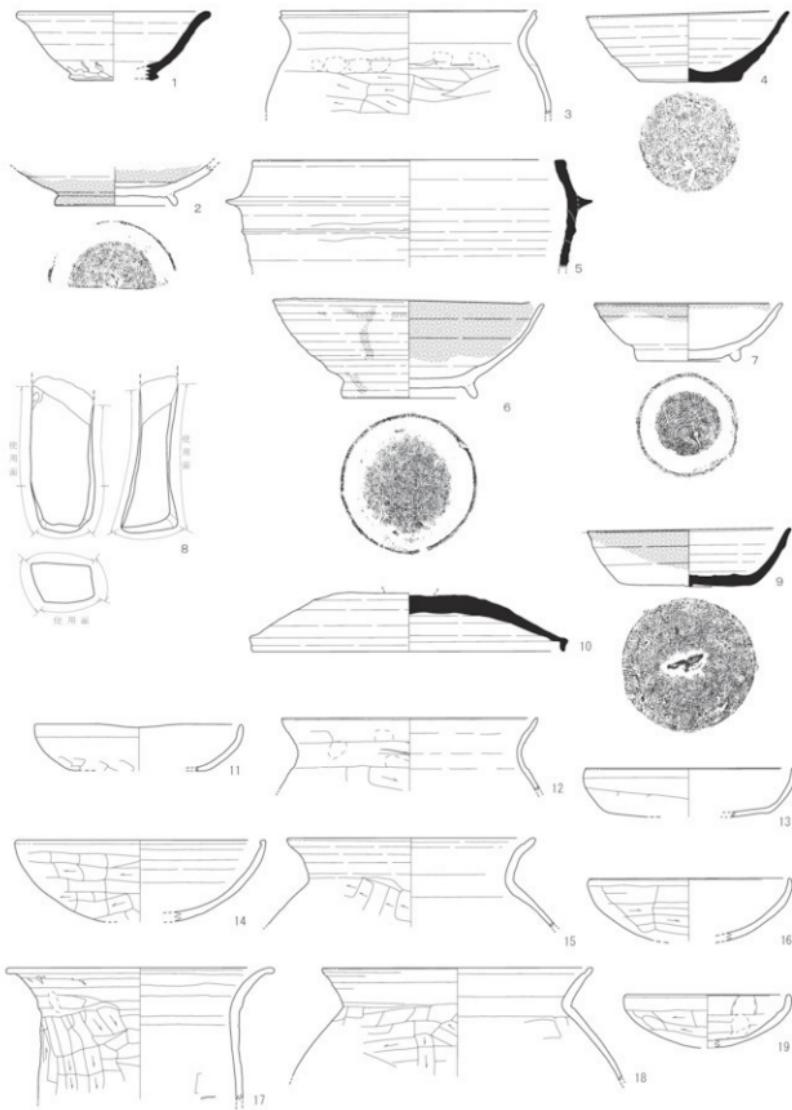


- 版築状遺構 (H-22 土層注記(A-A'))
1. 黒褐色 岩礫層 ローム粒と堆土粒を含む
 2. 灰黃褐色 中礫層 上に灰黃褐色粘質土を含む
 3. 黑褐色 中礫層 下部に灰黃褐色粘質土を含む
 4. 黄褐色 中礫層 下部より灰黃褐色粘質土を多く含む
 5. 黄褐色 強礫結なし 砂岩
 6. 黑褐色 大きな受けている 塚付着
 7. 黑褐色 弱礫結
 8. 黄褐色 中礫層 ローム粒、堆土粒を含む
 9. 黑褐色 中礫層 岩礫層
 10. 灰灰褐色 滲出中粒 岩礫を多量に含む
 11. 灰灰褐色 滲出中粒 岩上粒をやや多く含む
 12. 灰灰褐色 滲出中粒 岩上粒を多量に含む
 13. 灰灰褐色 強礫結 岩上粒をやや多く含む
 14. 黑褐色 中礫層 粘質土
 15. 黑褐色 中礫層 岩上粒を多く含む
 16. 黑褐色 中礫層 黑色土に褐色粘質土ブロックを含む

- I-1 土層注記(B-B')
1. 黑褐色 岩礫層 Ae-細粒石を含む
 2. 黑褐色 岩礫層 Ae-細粒石を含む
 3. 黑褐色 岩礫層 Ae-細粒石を少量含む

0 1:60 2m

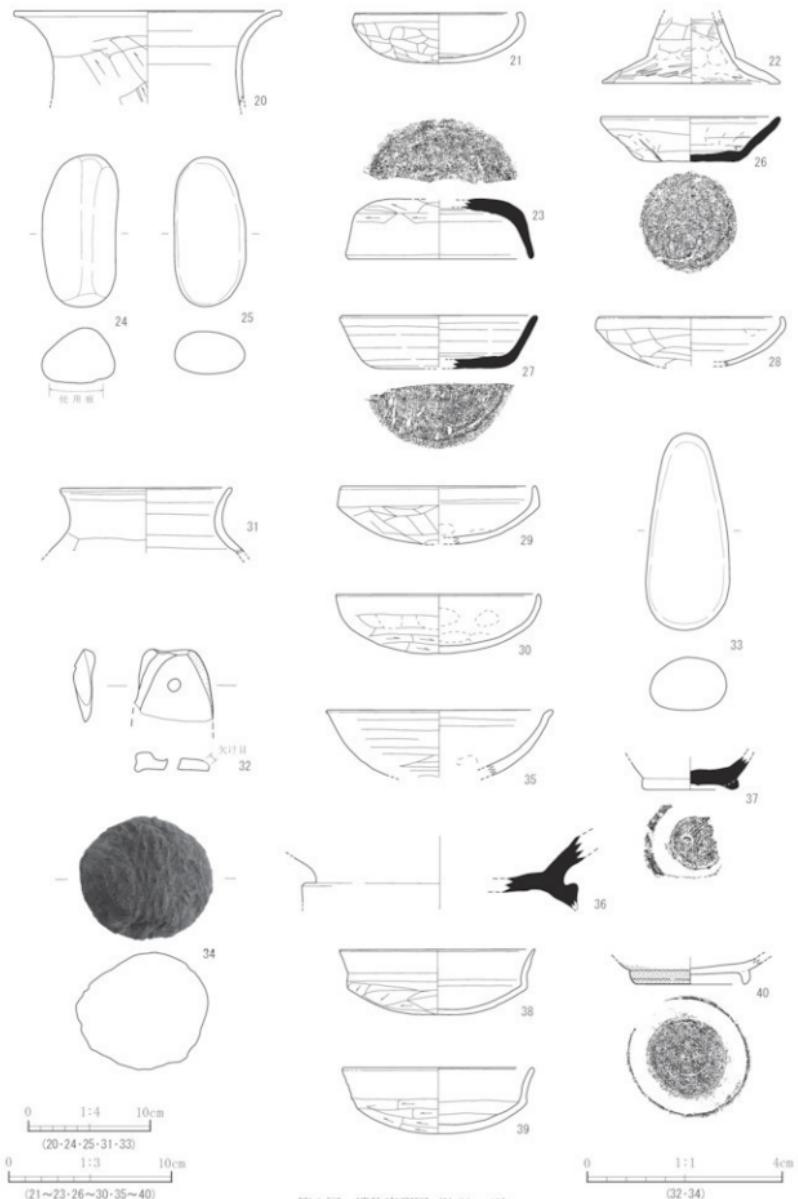
第7図 H-22号住居跡、版築状遺構、I-1号井戸



0 1:3 10cm
(1·2·4·6·7·9~11·13·14·16·19)

0 1:4 10cm
(3·5·8·12·15·17·18)

第8図 遺物実測図 (No.1~19)



第9図 遺物実測図 (No20~40)

図版 1



調査前全景（東から）



総社村東02遺跡全景（東から）



H-1号住居跡（南から）



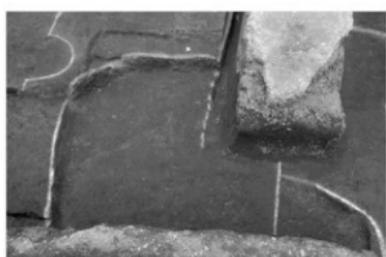
H-1号住居跡西壁断面



H-2・3号住居跡全景（西から）



H-5・8・14号住居跡全景



H-5・6・7号住居跡（南から）



H-5号住居遺物出土状況（西から）



H—17号住居跡全景（西から）



H—24号住居跡全景（西から）



T—1号竪穴状遺構全景（南から）



版築状遺構内 P 2 全景（北から）



遺構シート養生全景（東から）



2号トレンチ東壁（版築状遺構）



基本土層断面（6号トレンチ）



埋め戻し終了全景（東から）

図版 3



抄 錄

フ リ ガ ナ	ソウジャ ムラヒガシ ニ イセキ
書 名	總社村東02遺跡
副 書 名	日新電機前橋株風寮新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
編 著 者 名	山下成信・塙坪丈夫・岩丸辰久(前橋市埋蔵文化財発掘調査団) 金子正人・樺田友寿(スナガ環境測設株式会社)
編 集 機 関	前橋市教育委員会文化財保護課
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2009年3月13日

フ リ ガ ナ 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
ソウジャ ムラヒガシ ニ イセキ 總社村 東 02 遺跡	マスパレーネ ソウジガシマツ 前橋市總社町 2056番地	10201	20A142	36°24'08"	139°02'11"	201225 ↓ 210227	178m ²	日新電機株風寮 新築工事

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
總社村東02遺跡	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 時期不明	竪穴住居跡 竪穴住居跡 竪穴住居跡 竪穴状遺構 版築状遺構 溝跡 土坑	5軒 15軒 3軒 1軒 1ヶ所 1条 2基	土師器 土師・須恵器 土師器 土師・須恵器 土師器 土師・須恵器

総社村東02遺跡

2009年3月10日 印刷
2009年3月13日 発行

発 行 前橋市教育委員会文化財保護課
 前橋市三保町二丁目10-2
 TEL 027-231-9531
 編 集 スナガ環境測設株式会社
 前橋市青柳町211番地-1
 印 刷 朝日印刷工業株式会社

